

各位

上場会社名	日本開閉器工業株式会社
代表者	代表取締役社長 大橋 智成
(コード番号)	6943)
問合せ先責任者	取締役 市川 忠夫
(TEL)	044-813-8026)

業績予想の修正に関するお知らせ

最近の業績動向を踏まえ、平成21年5月20日に公表した業績予想を下記の通り修正いたしましたのでお知らせいたします。

記

(金額の単位:百万円)

平成22年3月期第2四半期連結累計期間連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,927	4	24	14	1.70
今回発表予想(B)	2,402	△231	△226	△235	△28.51
増減額(B-A)	△525	△235	△250	△249	
増減率(%)	△17.9	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	3,844	△40	5	△50	19.10

平成22年3月期通期連結業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	6,212	10	53	31	3.76
今回発表予想(B)	5,100	△490	△480	△500	△60.67
増減額(B-A)	△1,112	△500	△533	△531	
増減率(%)	△17.9	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	6,717	△577	△570	△1,243	△150.93

平成22年3月期第2四半期累計期間個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成21年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	四半期純利益	1株当たり四半期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	2,401	5	21	17	2.06
今回発表予想(B)	1,970	△193	△193	△220	△26.69
増減額(B-A)	△431	△198	△214	△237	
増減率(%)	△18.0	—	—	—	
(ご参考)前期第2四半期実績 (平成21年3月期第2四半期)	3,235	△3	10	△77	△9.35

平成22年3月期通期個別業績予想数値の修正(平成21年4月1日～平成22年3月31日)

	売上高	営業利益	経常利益	当期純利益	1株当たり当期純利益
	百万円	百万円	百万円	百万円	円 銭
前回発表予想(A)	5,097	12	45	37	4.49
今回発表予想(B)	4,200	△410	△410	△460	△55.82
増減額(B-A)	△897	△422	△455	△497	
増減率(%)	△17.5	—	—	—	
(ご参考)前期実績 (平成21年3月期)	5,692	△496	△451	△1,345	△163.21

修正の理由

1. 連結業績

(第二四半期連結累計期間)

昨年来の米国サブプライムローン問題に端を発した金融市場の混乱から設備投資の抑制や個人消費の低迷など厳しい経営環境が継続しております。

とりわけ当社の売上構成割合の63.1%を占める国内の産業用スイッチ市場(操作用スイッチ)の第1四半期連結累計期間における出荷総額は前年同期比45.4%減と、減少幅が当初の想定を10%以上、上回るとともに、特定の製品分野に限らず全般的に市場が縮小いたしました。当社も、こうした市場の悪化の影響を受けて、売上が減少しております。一方で、引

き続き種々の販売施策を講じ、販売努力は行うものの、厳しい市場環境は当面継続するものと想定し、売上予想を修正するものであります。

損益面におきましては、着実な原価低減と経費削減の活動は当初の計画通り達成しておりますが、売上高の減少は補いきれず、営業損失、経常損失、当期純損失を計上する見込みであります。

以上の理由から、平成21年5月20日に公表した業績予想を修正するものであります。

(通期)

第2四半期連結累計期間における厳しい状況を踏まえ、年間を通してこの状況が続くものと想定し、業績予想の修正を行うものであります。

2. 個別業績

連結業績予想の修正理由と同様であります。

※本資料に記載されている業績予想見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的と判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

以 上